

研究テーマ

「介護保険下で展開する理学療法に関する研究」

ーリハビリテーションシステムとアプローチー

研究室の紹介

当研究室では、医療保険で発展してきたリハビリテーション、主に理学療法について、介護保険下においてどのように展開したらいいかを学びます。したがって、地域展開から施設運営の部分まで、ミクロの部分からマクロの部分までを幅広く、その展開型について学びます。

主な研究テーマ

- 介護保険下での理学療法に関する研究
- 簡単な運動での介護予防効果に関する研究

主な担当講義科目

- 理学療法地域展開科学特論
- 理学療法地域展開科学演習

研究紹介

当研究室では、現在2年生1名が在籍し、その大学院生はフレイルについての研究をしています。我が国では、介護および介護予防サービスに要する費用は8兆円を超えており、少子高齢化が大きな課題となっています。高齢者が要介護状態に陥る過程には意図しない衰弱、筋力の低下、活動性の低下、認知機能の低下、精神活動の低下など健康障害を起こしやすい脆弱な状態（中段階的な段階）を経ることが多く、これらの状態を日本老年医学会は「フレイル」として提唱しています。このフレイルに、理学療法の関与、影響する因子、および生活空間での活動状況について調査し、理学療法をどのように展開したらいいかを検証する研究をしています。

また、昨年終了した大学院生のOB1名も引き続き院生勉強会に参加しており、生活空間での活動状況と理学療法をテーマに、研究をしています。主として通所リハビリテーションに通っている利用者を対象にして、在宅生活でどのように活動しているかを知り、何が影響しているかを検証するものです。これが明らかにできれば、在宅生活で活発に運動してもらうためには、どのように理学療法を展開すればいいのかについて一助になると考えています。

さらに、現在データ取りをしているのは、簡便にFunctional Reach Test (FRT) を計測する方法を検討しています。このFRTは、立位で前方へリーチできる最大距離を測定することで、転倒リスクやバランス能力を評価します。このFRTの評価は、リハビリの専門家が使用することがほとんどですが最近では介護現場の簡易評価としても使用されています。しかし、これを評価するには、方眼生地の壁の横で計測する方法、フレームを組み立てた機器のよって測定する方法などがあり、決して簡便な評価方法とは言えないため、誰もが簡単にできる評価方法を開発しています。

以上、主として介護保険下で展開する理学療法を視野に入れた研究を中心にしています。したがって、介護保険施設、通所リハビリテーション、在宅訪問などの現場がフィールドのなることが多いです。さらに、一般高齢者に対する介護予防についても、これから展開して行こうと考えています。これらは、広くりハビリテーションシステムについてであり、どのようにリハビリテーションおよび理学療法を展開しようということが、研究の根底にあります。地域貢献に資する研究をしていきます。

大学院進学を希望する方へ一言

当研究室では、介護保険におけるリハビリテーションシステムに関連する研究を幅広く行っています。特に、介護保険下でリハビリテーションを展開している人、あるいは、これからそれを行っていかようと思っている人、さらには、現在は病院に勤務しているが、将来そういう仕事を視野に入れたいと考え、そういう勉強をしようとしている人にお勧めいたします。